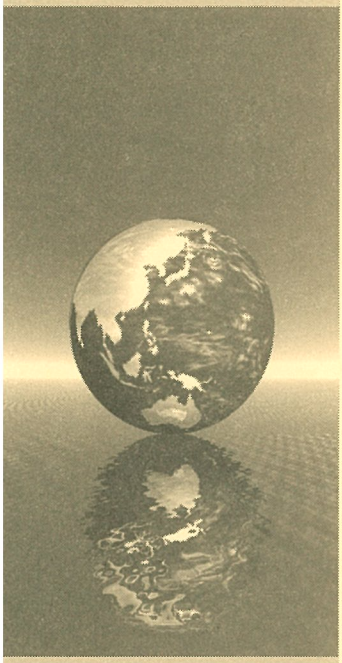
関西学院大学主催

春季人権問題講演会



日本の「難民」問題

～支援の現場から～

◆ **2007年6月26日（火）**
午後1時30分～午後3時00分
場所／西宮上ケ原キャンパス
大学図書館ホール

◆ **2007年6月27日（水）**
午後1時30分～午後3時00分
場所／神戸三田キャンパス
Ⅱ号館201号教室

◆ 講師／**筒井志保**（つついしほ）氏
（特定非営利活動法人難民支援協会事務局長）

＊本講演会には手話通訳・ビデオ撮影があります。

■講師紹介

特定非営利活動法人難民支援協会事務局長。建設会社勤務（二級建築士）を経た後、人権団体アムネスティインターナショナル日本に勤務。難民申請手続の説明や翻訳、入管・収容所への同行や面会、弁護士や他団体との協働支援などの実践を通じ国内外難民問題に関わる。支援現場から日本の難民問題へ関心を持つこととなった。難民支援協会設立準備会メンバーであり、1999年設立時に事務局長兼理事に就任。2000年4月～2004年12月迄パリナック・ジャパンフォーラム（UNHCRとNGOとの会合）において日本で難民支援に携わる団体による分科会（RAJA）を提唱、国内難民支援部会を立ち上げ、議長、事務局を務める。

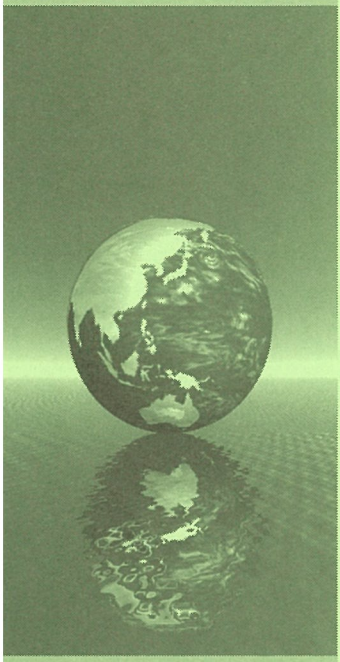
■講演内容

20世紀は「難民の世紀」とも呼ばれていました。しかし現在においても難民と呼ばれる人々が世界には2000万人（UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の援助対象者数）以上いると言われています。これは世界の人口の300人に一人が難民、若しくは難民と同じような状況で暮らしているということになり、21世紀に入った今も過酷な状況の中で生活する人はこの地球に存在しています。その内、ほんの一握りの難民が保護を求めてこの日本にもやってきています。彼ら難民となった人々の実態はどのようなものか。設立から8年間、日本にやってきた難民支援の実践現場から日本の難民について紹介し、難民問題の現在（いま）について考えます。

総合テーマ：
Culture of Human Rights
―人権文化を育む
（2005～2009年度）

関西学院大学主催
春季人権問題講演会

「総合コース:在日朝鮮人問題」30年を振り返る



◆ 2007年6月28日(木)

◆ 午後3時10分～午後4時40分

◆ 場所／西宮上ケ原キャンパス
大学図書館ホール

◆ 講師／朴(Park) 鐘鳴(Chyong-myong) 氏
(前 関西学院大学非常勤講師)

*本講演会には手話通訳・ビデオ撮影があります。

■講師紹介

1928年生まれ。1952年関西大学卒業後、教育関係・研究団体での仕事を経て、現在「民族を考える研究会」代表・「渡来遺跡研究会」代表・「KOREA N,G,O,CENTER」顧問・「民族図書館錦繍文庫」顧問・「同志社大学 朝・日関係史自主講座」顧問。

著　　書：「看羊録」訳注(平凡社)1979
「懲毖録」訳注(平凡社)1984
「私の見てきた日本」(尼崎市教育委員会)1978
「古代朝鮮を旅する」(ブレーンセンター)1987
「朝鮮からの移住民遺跡(1)」(錦繍文庫)1989
「海峡を越えて」(朝・日関係史研究会)2002
〈明石書店から〉
復刻「民主朝鮮」(全五巻)監修1993
「京都のなかの朝鮮一歩いて知る朝鮮と日本の歴史」1999(編著)
「奈良のなかの朝鮮一歩いて知る朝鮮と日本の歴史」2000
「滋賀のなかの朝鮮一歩いて知る朝鮮と日本の歴史」2003(編著)
「在日朝鮮人の歴史と文化」2006(編著)

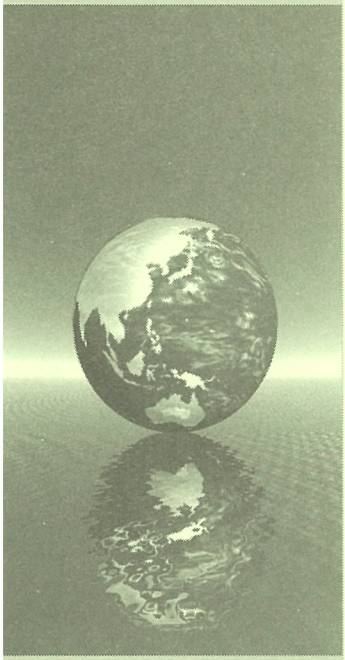
専　　攻：古代朝鮮史・朝日関係史

■講演内容

○「在日朝鮮人問題総合コース」開設まで
　一当時の在日朝鮮人の「人権」状況
○この「総合コース」が目指すもの(「大学要覧から」)
○教科書を作る
　・教科書以前
　・教科書『在日朝鮮人問題ーその歴史と現状』
　　(関西学院大学:1982/1984,第2刷)
　　以後、明石書店から新版・改訂版を5回にわたって発行
○講義に対する学生の反応
○むすび
　～何が「問題」であるのか

総合テーマ：
Culture of Human Rights
一人権文化を育む
(2005～2009年度)

関西学院大学主催
秋季人権問題講演会



総合テーマ：
Culture of Human Rights
―人権文化を育む
（2005～2009年度）

医師から見た HIV陽性者の人権

◆2007年12月13日（木）

● 午前11時10分～午後0時40分
場所／西宮上ケ原キャンパス
大学図書館ホール

● 午後3時10分～午後4時40分
場所／神戸三田キャンパス
Ⅱ号館102号教室

◆講師／白阪琢磨（しらさかたくま）氏

（独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS先端医療開発センター長）

＊本講演会には手話通訳がつきます。

■講師紹介

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS先端医療開発センター長、免疫感染症科長、免疫感染研究室長を併任。医学博士。

昭和56年に大阪大学医学部を卒業後、大阪大学医学部附属病院、西宮市立中央病院で研修し、社会福祉法人石井十次記念愛染橋病院に勤務の後、大阪大学医学部第三内科で肺癌の診療と研究に従事。国立療養所近畿中央病院勤務を経て平成元年より米国の国立衛生研究所に留学。世界最初の抗エイズ薬AZTの開発者である満屋裕明博士の研究室で5年半、HIV感染症の臨床研究に従事。

平成6年12月より大阪府立羽曳野病院でHIV診療を開始。平成9年4月に国立大阪病院が近畿ブロックのエイズブロック拠点病院に選定されるにあたり、エイズ担当医長として赴任し、平成16年7月より現職。日本エイズ学会、国、大阪府、大阪市、大阪府医師会などのエイズ関連の委員などを務める。

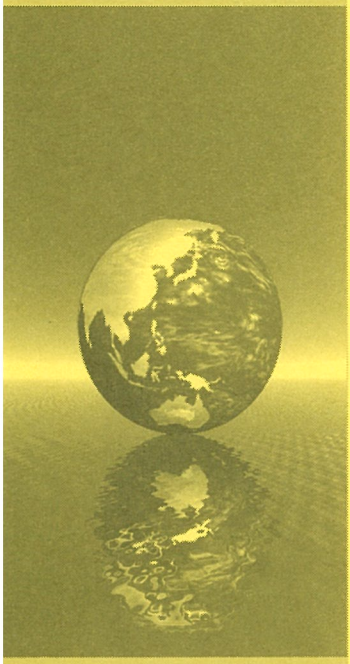
■講演内容

エイズは社会的スティグマであると言われている。エイズの原因ウイルスであるHIVは世界に拡がり、わが国でもHIV陽性者の報告数は増加の一歩を辿っている。当院は平成9年4月からHIV診療を開始し、これまでに受診した陽性者は累積で1200名を超えた。

最近では、ほぼ毎日のように新たな陽性者が受診し、その多くは20歳代から40歳代の男性で性行為による感染である。平成9年頃の新薬登場を機にHIV感染症は治療の出来る慢性疾患となり陽性者は生き続けることができる時代になったが、治癒はなく陽性者は困難を抱えながら生きている。

講演では当院のHIV診療の状況を示し、この10年、HIV陽性者の診療から見たHIV陽性者の人権につき述べ、HIV陽性者の人権を共に考えたいと思う。

関西学院大学主催
秋季人権問題講演会



カンボジアの子どもの人権侵害とその取り組み

◆ 2007年12月17日(月)

◆ 午後3時10分～午後4時40分

◆ 場所／西宮上ケ原キャンパス
大学図書館ホール

◆ 講師／甲斐田（かいだ）　万智子（まちこ）氏
（特定非営利活動法人 国際子ども権利センター代表理事）

*本講演会には手話通訳がつきます。

■講師紹介

1960年生まれ。上智大学卒業後、（財）日本ユニセフ協会勤務。開発教育を実施。1989年英国サセックス大学開発問題研究所修士課程修了。イギリス滞在中NGOの開発教育の実践を学ぶ。1996年より国際子ども権利センタースタッフ。大阪事務所勤務、横浜事務所スタッフを経て2003年よりカンボジア事務所駐在員。2007年8月よりタイ在住。立教大学異文化コミュニケーション研究科非常勤講師。

著書「立ち上がる世界の子どもたち」（ポプラ社）（編著）、「グローバル化と人間の安全保障」（日本経済新聞社）（共著）、論文「カンボジアにおける子どもの性的搾取と人身売買～グローバル化する暴力と国際社会の役割」『平和研究31号』、（日本平和学会）など。

■講演内容

カンボジアでは、1990年代から子どもの人身売買の問題が深刻化し、国内だけでなく、タイやマレーシアに子どもたちが売られるようになりました。騙されて性産業に売られた少女たちの中には、精神的なトラウマに悩まされたり、HIV/AIDSに感染し亡くなったりする少女も少なからずいます。

カンボジアには、性的搾取のためのみならず、家事使用人や漁業など労働搾取のために騙されて売られる子どもたちや、過酷な条件のもとで権利を侵害されながら働かされる子どもたちもいます。

こうした子どもの人身売買・性的搾取・労働搾取などの人権侵害の状況や背景とともに、日本人のかかわりやカンボジアにおけるNGOの取組みをお話しながら、私たちに何ができるのかを共に考えたいと思います。

総合テーマ：
Culture of Human Rights
― 人権文化を育む
（2005～2009年度）